

今後の同和対策の方針は



大迫 邦藏議員

今日の同和問題とは何か

大迫邦藏議員 宮之城町の同和地区の人々は、平安時代から鎌倉時代にかけて、祁答院地方を支配した大前氏の末裔であるといわれている。それは「祁答院記」や「宮之城記」等の古文書から推察される。とりわけ、土持仙巖の「宮之城記」には、「時吉と名乗る人々は渋谷家にあらず、其の以前の領主、大前氏をいう」とある。宮之城町の同和地区の人々は代々「時吉」姓を名乗っている。

このように今日の同和地区住民の「出自(出身)」は、戦国武将の末裔であったり様々である。しかし、江戸時代に人々を支

配するために、「封建的身分制度」が確立されてから、差別が強化された。そして今日まで同和地区の人々に対する偏見が残存されてき

毎年開催される町社会教育推進大会。生涯学習講座の成果発表等が行われる。



整然と整備された墓地
(平成13年度墓地公園整備事業)

た。それでは、今日の同和問題とは何か。それは、同和地区に生まれ、住んでいるということだけで色メガネで見られる。す

なわち、個人の能力や人柄によって評価されるのではなく、生まれ在り所によって判断される。これが今日の同和問題である。そこで、このような偏見をなくするための対策について見解を求めます。

人権意識の高揚を

北村町長 同和問題は、江戸時代に人々を分離支配するために、政治的につくられた身分制度に端を発している。過去の遺物でありながら、今日まで差別意識が残存していることは遺憾である。

これまで本町では、

- ① 道路整備事業
 - ② 農林業基盤整備事業
 - ③ 社会福祉事業
 - ④ 保健環境事業
 - ⑤ 住宅対策事業
- 等のハード事業を実施するとともに

- ① 同和教育の推進
- ② 「人権尊重の町」宣言
- ③ 「宮之城町人権擁護に関する条例」の制定

等のソフト事業にも取り組んできている。今後は、特に人権意識の高揚に努めたい。